

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 1174200764 | | |
| 法人名 | 悠馬エンタープライズ有限会社 | | |
| 事業所名 | グループホームらんらん倶楽部 | | |
| 所在地 | 埼玉県児玉郡神川町熊野堂2578 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年1月5日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年2月8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社ユーズキャリア | | |
| 所在地 | 埼玉県熊谷市宮前町2-241 | | |
| 訪問調査日 | 平成23年1月19日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が気分転換が出来たり張り合いが持てる様にその方が出来る事をしている。(うどん打ちやおまんじゅう作り等)おまんじゅうのあんは畑でとれたさつま芋やかぼちゃを使い収穫した野菜は食事に出され家族にもおすそ分けしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、周囲に田畑や果樹園があり、民家も近くにある閑静な場所にある。平屋建ての2ユニット(定員18名)で、左右対称のユニット間は、入居者が自由に行き来でき、職員全員が入居者の状況を把握、支援している。広い中庭には入居者一人ひとりの花壇があり、四季折々の花が植えられる。又、広い農園を有し、入居者と職員が育てた野菜が収穫され、調理されて食卓を飾る事が大きな喜びとなっている。時には中庭での餅つきやバーベキュー等、家族や地域の方々との交流も行われている。楽しみの一つである入浴は、南側に面した浴室の大きな窓から広い中庭や農園を見渡す事が出来、明るく開放感があり、四季の移り変わりを眺めながら、ゆっくりと入る事が出来る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 開設当時の理念で理想と思われるが職員間で理念を確認したり、検討することが少ないと思う。 | 自分の身内のように、本当の家庭のように思ってもらえるホーム作りに努めている。日々の言動や行動等、実践が理念に即しているか、朝礼等で触れ、共有に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 交流は殆どないが、散歩時に逢った方と挨拶を交わしたり自治会の行事(道路清掃や新年会、お祭り等)に参加し地域と関われる様に努力している。 | 自治会に加入し、回覧板を回したり、行事等会の活動に参加する事で顔を合わせ、言葉を交わし合っている。又、運営推進会議や防災訓練に参加してもらい、ホームへの関心を持ってもらい、理解を図っている。散歩の折に挨拶を交わしたり、声を掛けてもらっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 回覧板を持って行ったり推進会議等でホームの行事又、グループホームの内容等、おりにふれて説明している。家族からの悩みや相談は随時行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 定められている2ヶ月に一度の開催が出来ない時期もあったが昨年は10月、12月と実施。次回は2月を予定している。ホームから活動報告や行事予定等を発表し参加者の方から意見や提案をお願いしサービスの向上に繋げている。 | 今年度は10月、12月に開催し、次回は2月に開催予定している。構成メンバーは、地域住民代表、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、職員で、多くの参加が得られた。施設の役割、内容、現況、予定等を議題としている。 | 開催に向けた取組みは大いに評価出来る。今後も多分野からの参加を得た定期的な開催が期待される。又、外部評価の結果や今後の運営等について話し合い、サービス向上に活かす事が期待される。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 入退所、事故報告等はきちんと行っている。推進会議に包括から参加して戴いたり、包括で定期的に実施されているCM会議に参加し連携を心掛けている。役場の担当者には解らない事等は質問しコミュニケーションを図る様に努力している。 | 担当者とは情報交換を行い、要望や意見等を積極的に届けている。地域包括支援センターで開催されるコミュニティ会議に参加し、他事業所間で現状報告等を行い、連携に努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の中扉は外出願望の強い方も見られる為、施錠している。安全を守る為、やむなく安全ベルト等の身体拘束を取る場合は職員会議で話し合い、書類でご家族様にも説明し理解して戴いている。 | 事故防止、生命の安全面から、玄関中扉は施錠している。外出願望出現時は、散歩や庭に出て気分転換を図る等の支援をしている。高齢化による重度化止むを得ない状況の時は、家族の了解のもと、対策を検討している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 毎朝の朝礼時に何が虐待になるか全員で考えたりする。TVや新聞等で話題になったりしたケースを自分に置き換え学ぶ機会を作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在対象者はないが、必要性があれば関係者と連携し活用して行きたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所まで見学・面談、本人や家族の要望等、充分話し合い安心してお世話をさせて戴けるように説明している。納得してから契約をしている。長期入院が見込まれる時は充分説明し退所の手続きをして家族の負担を軽減している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の面会時や推進会議等は話し易い雰囲気づくりに留意し意見や苦情を聞く様に努めている。管理者は相談・苦情の窓口になっている事は契約時に話し、役所や国保連でも受け付けていることも付け加えている。玄関に意見箱の設置もある。 | 意見箱を設置しているが、面会時や電話での口頭による意見が多く、ほとんど個人的な要望や依頼である。運営推進会議に参加する家族も多く、少しずつ理解、関心を深めてもらえるよう努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議や朝礼等で職員の意見や提案を発表できる機会を設け、改善に努めている。 | 当番の担当者が、朝礼でニュースや介護の事等個々の見解を述べている。定例の職員会議は、ユニット合同で意見や提案を出し合い、一貫した介護に向け協力し合えるよう努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 各自の希望に沿った勤務になっている。月間、週間のシフト表で一目瞭然である。個々の努力や実績などは昇給及び賞与で反映されていて、やりがいがあるシステムになっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 実践者研修、その他各自にあった研修の受講は薦めている。介護福祉士やケアマネ等の資格取得も応援しステップアップを目指している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他の同業者と行事を一緒にしたりして交流を図っている。又、情報交換しサービスの向上につなげている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 見学时より入所までの間、ご本人やご家族様の希望を聞き、安心して入所が出来るように配慮している。又、プラン作成時にはホームでどう過ごしたいかの要望も聞いている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様の不安や心配事をじっくり聞き大切なご家族様をお世話させて頂ききちんと話し、ご家族様とのコミュニケーションに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 情報提供書や介護サマリーを参考にしながら、今ご本人に何が必要でご家族様は何を望んでいるかを見極めサービス提供をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 人生の先輩として人格を尊重し、出来る事はして戴き日常生活の中で笑顔がたくさん見られる様な支援をしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様が面会に見えた折には近況報告をしたり一緒に写真を撮ったり、行事には参加して戴いたりご家族様には心配な事や気になる事がないか尋ねている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 居室に写真や手紙を置いている。馴染みの場所へは機会があればお連れしたりご家族の協力を戴き外出をお願いしている。 | 家族や親戚の面会や、一時帰宅、外泊、外出等をいつでも受入れたり、馴染みの理美容室やマッサージの利用を希望する方には、支援をしている。居室に手紙や写真を置き、一緒に見ながら読んだり、話し合ったりしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 体操は毎日実施していて全員の方が参加されている。レク(歌・カラオケ・ものづくり等)を通して利用者様同士が関われる様に声掛けし見守っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退後も近くにお住まいであれば、訪ねていっている。又、必要に応じて相談も受け付けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常の行動や何気ない言葉・表情から本人の希望や意向の把握に努めている。又、ご家族様から情報を聞きとり本人本位の把握が出来るようにしている。 | 会話や日常生活の中での言葉や行動、表情から、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、家族の情報から汲み取り、本人本位に検討している。現在、地域の方に将棋の相手をお願いする準備を進めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 毎日の生活の中でどこで生まれ何歳で結婚し子供は何人？ご主人はどんな人だったの？と自然な会話から把握し新しい発見があった時は職員間で情報を共有しサービスに繋げている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日朝、夕の申し送りにて体調の変化を確認している。一日の過ごし方は全体ではほぼ決まっているが自由な時間も設け各自の身体機能が維持できる様にケアプランに反映している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 問題があればその都度カンファレンスを行い検討している。又、ご家族にも意見を聞きその方にあったサービスが提供できる様に努めている。基本的にプランは3ヶ月に一度の見直しをしているがモニタリングは毎月行っていない。 | 担当者からの情報や意見、日々の記録をもとに、計画作成者が作成している。状態安定時は3ヶ月毎に評価、見直しを行い、変化が見られた時はカンファレンスを実施し、変更、作成している。家族にも意見を聞き、説明と同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | アバウトなケア記録を日時・内容が良く解る様に改善し生活の中で改めてびっくりした発言等を見逃さない様に記入し情報を共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 外部からマッサージを利用されている方もみられたり、ここでしか行えないうどん打ちやバーベキューも利用者の状況で即日実施するなど柔軟な支援と思われる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の小、中学生の体験学習も受け入れ利用者と子供達が関わる事で心身の安定を図っている。避難訓練は地域の方にも参加して戴き定期的に行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所時に主治医の内容を話し家族了解のもと2週間に一度往診して戴き健康管理をしているが強制でなくかかりつけ医がある方は継続して適切な医療が受けられる様に支援している。 | 入居時、協力医と馴染みのかかりつけ医継続の希望を聞いている。協力医は2週間に一度の往診、受診、相談への指示、夜間対応をしてもらっている。歯科には、訪問診療、口腔ケア指導を、眼科はホーム側で同行している。家族同行の受診は、様子を伝え、結果を共有している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調の変化にはホームに勤務している看護師と連携しいつでも相談や指示を仰ぎ実施している。又、主治医にも連絡し対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院には極力付き添ってホームでの生活の様子を伝え入院中は状況を把握する為、出来るだけ面会に行き病院の相談員さんと情報交換している。又、日頃から顔だししコミュニケーションが図れる様に助力している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 現在、話し合う必要がある様な利用者はないが終末ケアは契約時にはなしている。家族が希望すればDr・Ns・家人・職員が全員で方針を共有できる取り組みはある。 | 看取り経験はある。入居時に重度化指針を説明し、同意を得ている。終末ケアは、希望があれば家族の協力を条件に、医師、看護師、職員等の連携で受入れ、取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急連絡網を作成し各自がなにをどうするかを把握しているが定期的に講習やシュミレーションは行っていない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回は避難訓練を実施している。地域の方や自治会の協力も戴いている。 | 入居者も参加し、区長や民生委員に依頼し、近隣住民の協力を得て、年2回消防署立会いで訓練を実施している。職員体制も含め、夜間想定訓練も実施した。役割分担等計画を立案し、実施後反省会を行い、次回に活用している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 常に心掛けているが職員の一部には時として人格を損ねる様な言い方が見られる。その都度話し合い利用者はもちろんの事、職員間で言葉掛けに気をつける様にしている。 | 心のこもった言葉掛けと相手を尊重した言葉遣いに気をつけ合っている。不適切な事柄については、朝礼時等で触れ、職員一人ひとりが振り返り、気づきを持って介護に臨めるよう留意している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | おやつの時などはメニューを作り飲み物を選んで戴くようにしたり、洋服も自己決定が出来る方には本人の意思を尊重した援助をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 自ら今日をどう過ごしたいか・・・の訴えが少ない為必ずしも希望に沿っているかどうか解らないが職員サイドの援助にならない様に注意している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 男性は毎朝、髭そりをし、女性は髪を整え身だしなみには気をつけている。又、2ヶ月に一度外部からヘアークットに来て戴いたり、家族が行きつけの美容院にお連れしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | その方の力量に応じて野菜の下ごしらえ・テーブル拭き・お茶入れ・洗濯物の整理等を一緒に行っている。誕生日や行事には特別なメニューになっている。 | 輪番による担当者が食材のバランスを考え献立を作成し、調理、提供している。入居者は、皮むき、お茶入れ、下膳、テーブル拭き等、出来る事を行っている。誕生会や行事食、おやつに嗜好や希望を取り入れている。粥、刻みにしたり、食べやすい食器にする等、個々の能力にも配慮している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量や水分量は毎日記録し確認している。握力が低下している方は軽い器を用意して状態に合わせている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアは毎食行っている。介助が必要な方は職員が義歯の洗浄をしたり装着をして清潔を保持出来るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | リハパン使用の方も定期的にトイレ誘導し失敗が軽減出来るように援助している。その上で排泄パターンを把握し自立に向けた支援を行っている。 | 高齢者が多い中でもチェック表やパターンに応じ声掛けや誘導により、トイレでの排泄に向け支援している。紙パンツ等への移行については、職員間で十分話合ってから実施している。今までに改善ケースもある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排尿・排便の有無は毎日記録し把握している。おやつにふかしたお芋を出したり、食事にも便秘解消になるような物を提供したり、散歩で身体を動かしたり工夫はしている。頑固な便秘の方は主治医に相談し服薬もしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 現段階では1日置き、午前中全員を入浴日と決めているが職員にも負担が大きく利用者さんも入浴のタイミングが合わない時もある為、検討中である。 | 個浴と数人浴の浴室があり、介護度によって支援している。現在週3回の入浴日を設けているが、職員の介護負担軽減も含め、改善策を検討中である。ゆず湯、菖蒲湯等、季節の趣を楽しめる工夫もしている。 | 大小二つの浴槽の活用を検討し、入浴日の増、曜日、時間、職員の負担減等、多様な問題について職員間で意見を出し合い、検討、解決する事が期待される。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 食後、居室で休息される方、ホールで過ごされる方と一人一人異なる。就寝時間もまちまちで自由と思われる。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬時、本人に確認して戴き手渡ししたり介助したりしている。必ず飲み込むまで確認している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 出来るお手伝いをお願いし張り合いが持てるように援助している。又、好きな事をして気分転換が出来るように働きかけている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は散歩をし季節感が味わえる様に支援している。又、その時期にあった行事(祭りや花見・初詣等)に参加出来るように援助している。ご家族にも外出の機会を依頼し利用者様がその人らしく過ごせるように努めている。 | 天気の良い日は散歩に出掛けたり、庭や菜園、ベランダ等に出て外気浴や日光浴を楽しんでいる。地域の祭りや季節の花々を楽しむドライブ、買物に同行する等の外出支援も行っている。家族と一緒にの外出もお願いしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在自己管理できる方はいらっしやらない為、ご家族承諾のもとホームでお預かりし本人が希望する品物は一緒に買い物に同行したり職員が代行している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人が希望すればいつでも電話をかけている。又、必要に応じて状況を報告している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有部分は常に快適であるよう照明や音、換気・清掃等に配慮している。ホールには季節の飾り付けをしてホッとできるように工夫している。冬季は炬燵を作り気の合う者同士が炬燵にあたりながらのんびり過ごされている。 | 居間兼食堂は、吹き抜けから柔らかな光が差し込んでいる。和室にはコタツ、コーナーにはソファが置かれ、思い思いに過ごせる場所が作られている。台所を中心に、ユニットへの往来や見守りが出来る。浴室は大きな窓があり、外の風景を眺めながら入浴が出来る。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホール内には所々にソファを置き一人でのんびりすることも出来る。又、テラスにもテーブルや椅子を置き自由に陽にあたりながらお茶等が出来るように工夫している。中庭には花壇があり季節の花を植えている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所時に使い慣れたタンスや鏡台等を持って来て載っている。居室は本人が安心して休めるように配慮している。 | 使い慣れた調度品や制作した粘土の作品、家族の写真等で居室が作られている。個々の状態に合わせた、安全で安心、安定した生活出来る居室になるよう職員も一緒に考え、居室作りに関わっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 歩行の不安定な方でも安全に過ごせる様に手摺りはホール内全体に取り付けてある。又、バリアフリーになっていて車椅子の方でも移動がしやすい様に工夫され依頼心が必要以上に強くならずできることは自ら行えている。 | | |